

# 宮殿銚金具 修復工程

本修復では、金具の表面に水銀を塗って金箔を押し、加熱して水銀を蒸発させる水銀鍍金という方法で行いました。

水銀鍍金は日本では古墳時代には行われていたメッキの手法です。水銀を用いた作業のため、環境対策として特別な整備が必要となります。

## 洗 浄



経年で汚れた銚金具を洗います。複数回洗うことで、より汚れを落とすことができ、錆止めの効果を発揮します。

鍍金面に水銀を摺り広げ、金箔を押し重ねます。金箔を押すと水銀が金箔を吸い込み金アマルガム合金となります。



## 加 熱



加熱して水銀を飛ばすことで、水銀が蒸発し金具表面に鍍金され、銀色だった銚金具が金色に変化します。

銚金具の裏面が青くなるまでじっくり炙ったら、銚金具を冷まし、鋼で浮き沈みをとって平らにします。



## 洗 浄



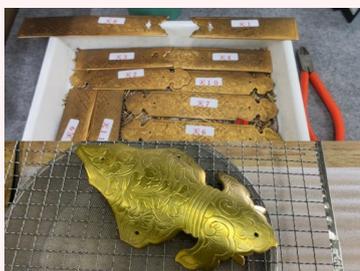
希硫酸に5分ほど漬けて真鍮ブラシで磨き、重曹で洗い汚れを落とします。

銚金具にカリヤスを塗って保護膜をつけます。

※カリヤス：イネ科ススキ属の多年草で、古くは茎や葉から黄色色の染料をとるために栽培されました。



## 完 成



カリヤスを使用することで銚金具の黄色みが増します。修復を終え、銚金具が綺麗になりました。

(上:修復前 下:修復後)

## 仕 上 げ



綺麗になった銚金具は各部材に取り付けられ、阿弥陀堂内で宮組立作業を行ったよ!!

※木鼻は漆箔という方法で修復を行いました。



before

after  
木鼻:猿